

## 第 292 回東京支部技術フォーラムに参加して

東京女子医科大学附属足立医療センター 放射線科  
廣瀬 裕大

2024 年 11 月に第 292 回東京支部技術フォーラムが開催された。本フォーラムでは「PACS の今とこれから」をテーマに現在の PACS の状況をオンプレミス型、クラウド型に分けそれぞれキヤノンメディカスシステムズ、PSP のメーカー 2 社による講演が行われた。さらに PACS の状況のみならず近年普及している AI を用いた画像解析および読影支援ソフトウェアなど最先端 AI の情報についての講演も行われた。

現在主流となっているオンプレミス型 PACS では医用画像の高画質化・高分解能化に伴う課題としてサーバーのストレージ圧迫の問題が挙げられており、解決策としてデータ自動削除機能や再圧縮機能などについて講演いただいた。加えて、近年の新しい取り組みとしてグループ病院における病院間でのデータ連携についても紹介された。この機能は関連病院で取得したデータを互いに参照することが可能となるもので、関連病院間で画像の取り込み等の手間が省けるため複数施設を有し医師や患者の移動がある医療機関にはとても嬉しい機能である。

クラウド型 PACS ではセキュリティや参照速度の課題が挙げられ、セキュリティ対策としてのデータセンターとの通信に対する工夫や、参照速度向上のために直近検査データの保持、参照されるであろうデータを予測してあらかじめデータセンターからダウンロードしておく仕組みなどメーカーによる様々な工夫を知ることができた。

フォーラムの最後には意見交換として今後の PACS の動向や課題についてもディスカッションが行われた。今後の展望としてマイナポータルと連携した医用画像の管理が話題として挙げられた。これが可能となれば施設間での画像のやり取りを削減できるため大変有用ではあるが、まだまだ課題は多く難しいところである。

本フォーラムに参加したことで今後の PACS のあり方を再度考える良い機会となった。特にクラウド型についてはセキュリティや参照速度の問題、通信障害等の影響を大きく受ける印象があったため普及はまだまだ先だと考えていたが、メーカーの課題解決への様々な取り組みを知ったことで想像よりも早く普及していくと考えを改めた。